



復員・引揚

三月の末とはいえ、北滿には冬の寒さが残っていた。昭和二十年（一九四五）、父は満州国のチチハル市から二度目の兵役につくため、ハルビンに向かった。内科、外科、眼科の北満病院を開いていたが、手伝っていた医師達はすでに兵役にとられ、最後に残った父も出征した。母と子供六人の生活が始まった。父のいない食卓は寂しかった。夏になっても父は帰ってこない。日本で父の帰りを待つことにした。

持てるだけの荷物を持って、マーチョ（馬車）でチチハル駅に向かった。駅で重大放送があると知らされ、そこで日本の敗戦を知った。駅前の広場は騒然とし、汽車にも乗れず、仕方なくまた病院にもどった。

敗戦の翌日、隣組の製麵所が暴徒に襲われた。八月十八日ソ連軍がチチハルに入城した。ソ連軍が来てから治安が一層悪くなり、ソ連兵による略奪が続いた。ソ連の正規軍が入ってきて治安がよくなりだしたころ、青少年滿蒙開拓団の一隊が着の身着のまま奥地から逃げて病院を宿舎にした。開拓団の団長さんがいろいろと動き、翌春になり日本へ帰ることを決めた。チチハルからコロ島の港まで約千五百kmの逃避行である。屋根のない貨車にのり、途中何度も止められながら、地平線から日が昇り、地平線に日が沈むコーリヤン畑の中を三日三晩走り、ハルビンに着いた。

もと刑務所だったという収容所に入った。そこで九州出身の人も加わり、一行は五十人程になった。収容所に来て半年近くたったころ、列車の都合がついて次の旅に出た。貨物列車で何日か走り、馬車にのりかえた。四頭立ての馬車でぬかるみをやっとのりこえ、中共側の検問所についていた。馬車の馱者がスパイ容疑で丘の上の司令所につれていかれ、とうとう帰ってこなかった。列車の中や、歩く途中でときどき止められては品物検査があり、目ぼしいものは次々とられてしまった。やっとならぬとコロ島の収容所にたどりつく。コロ島には米軍のジープが走っており、海も見える。海

歴史は、現在、若しくは未来を生きる人々にとって有用であるべきである。これまでも苦難の道を歩まざるを得なかったとき、先人は絶望の淵から復活の道程を築いてきた。ただ、がむしやらにである。明日の復活のために過去の協調の歴史を学んでは、出水の歴史も捨てたものではない。

責任者 田島英樹

の向こうに日本があると思うと胸があつくなくなった。コロ島で細長いさつまいもをはじめて食べた。日本にはこんなにおいしいものが一杯あると聞いて早く帰りたいと思った。

一月月ほど船待ちをし、リバティ船にやっとな乗れた。船は一路、博多港を目指した。船に乗りながら船上で死ぬ人もいた。博多港に着いても感激が目がくもり、陸地がよくみえない。チチハルを離れる時、見送ってくれた日本人、満州の人、どうせ助からないと私達兄弟をもらいにきた満州の人。朝おきたら隣りの人が死んでいたこともあった。栄養失調で倒れた子供達、ロシア教会の前で死んでいた白系ロシア人の子供、月明かりを頼りに必死で歩いた夜のこと、いろいろのことが土砂降りの雨のように一度に想いだされ胸を叩いた。日本に着いて三日目に末の弟は亡くなった。

（「昭和二十年特集さらば興安嶺」新富芳明 『広瀬川』第三号から）

父が、今日、十二時に玉音放送があるので、着物（たいした着物は持っていないなかったが）を着替えてついてこいと言うので、集落に一軒しかないラジオのある家の裏庭で、数人の人達と玉音放送を聞いた。「忍び難きを忍び、堪え難きを堪え……みんな涙して黙っていた。と、誰かがつぶやいた。

「日本は負けた、戦争は終わった、無条件降伏だ」と。その時、自分は五歳三か月であった。長兄の戦死公報はその年、四月二十四日で二十六歳の若さであった。長兄が出征したのは、自分が生まれて一週間目で、自分の手を握って「ふとなつとれよ」と言って別れたとか。一体、何のための戦争だったのか、五十四歳の今でも苦しむ。八月の青田の上を当時の練習機の赤トンボのように、戦争で亡くなった多くの人々の霊を乗せて、赤トンボが夕陽に映えて静かに流れ去っていく。

（昭和二十年特集「戦争を語る」岩下寿一『広瀬川』第三号から）

（出水郷土誌下巻 現代編 戦後の混乱から復興へ）



『広瀬川』は中央図書館に所蔵
閲覧・貸出利用可

July

7月

二十四節気 小暑(7月7日) 大暑(7月22日)

キーワード 七夕・天の川・夕立・土用丑の日・梅雨明け

2020年

お中元・山開き・海開き・夏休み・暑中見舞

月	火	水	木	金	土	日
		1	2	3	4	5
		童謡の日	うどんの日	ソフトクリームの日	アメリカ独立記念日	江戸切子の日
		国民安全の日	ユネスコ加盟記念日	通天閣の日	梨の日	
		建築士の日	たわしの日	波の日		
		橄欖忌 (瀧口修造 1979)		紅玉忌 (後藤竜二 2010)		
6	7	8	9	10	11	12
ワクチンの日	七夕	質屋の日	ジェットコースターの日	納豆の日	職業教育の日	ラジオ本放送の日
公認会計士の日	ギフトの日	屋根の日		ウルトラマンの日	世界人口デー	人間ドックの日
サラダ記念日	乾麺の日	中国茶の日		潤滑油の日	真珠記念日	洋食器の日
ピアノの日	クール・アース・デー	裕計忌 (多田裕計 1980)	臨外忌 (森臨外 1922)	鱒二忌 (井伏鱒二 1993)		
13	14	15	16	17	18	19
ナイスの日	検疫記念日	お盆	藪入り	理学療法の日	光化学スモッグの日	サイボーグ009の日
生命尊重の日	内視鏡の日	中元	駅弁記念日		ネルソン・マンデラ	
日本標準時 制定記念日	廃藩置県の日	孟蘭盆会	国土交通デー		国際デー	
		ファミコンの日		あじさい忌 (石原裕次郎 1987)		幻化忌 (梅崎春生 1965)
20	21	22	23	24	25	26
Tシャツの日	神前結婚式の日	ナッツの日	海の日	スポーツの日	かき氷の日	幽霊の日
ハンバーガーの日	日本三景の日	下駄の日	ふみの日	劇画の日	はんだ付けの日	
月面着陸の日	自然公園の日	著作権制度の日	カシスの日			
修学旅行の日			米騒動の日	河童忌 (芥川龍之介 1927)		せんべろ忌 (中島らも 2004)
27	28	29	30	31		
スイカの日	世界肝炎デー	アマチュア無線の日	梅干の日	蓄音機の日		
	日本肝炎デー	水素医学の日	プロレス記念日	パラグライダー記念日		
	石榴忌 (江戸川乱歩 1965)			土地家屋		
	園生忌 (辻邦生 1999)	谷崎忌 (谷崎潤一郎 1965)		調査士の日		

運動・週間

- 全国安全週間(7月1日～7日)
- 河川水難事故防止週間(7月1日～7日)
- 熱中症予防強化月間(7月1日～31日)
- 海の月間(7月1日～31日)



7月のできごと

- 舎人親王らが『日本書紀』を完成し撰上(720年7月1日)
- 金閣寺放火事件が起こる(1950年7月2日)
- 第1回FIFAワールドカップがウルグアイで開幕(1930年7月13日)
- 障害者の雇用の促進等に関する法律施行(1960年7月25日)
- 深作欣二監督生誕90周年(2020年7月3日)
- コナン・ドイル没後90周年(2020年7月7日)

主な文学賞 (19年度実績)

- 直木三十五賞 芥川龍之介賞
- 講談社本田靖春ノンフィクション賞 講談社エッセイ賞
- 開高健ノンフィクション賞

作家の命日・7月

- 7日 光瀬龍 1999 29日 佐藤雅美 2019
- 14日 深田祐介 2014 30日 伊藤左千夫 1913
- 26日 吉行淳之介 1994 30日 幸田露伴 1947
- 28日 山田風太郎 2001 31日 吉村昭 2006

7/1現在、出水市立図書館は、新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため、お座席を半減して開館しています。又、読み聞かせ会等の行事も見合わせています。ご理解とご協力をお願いします。

中央図書館 電話0996-63-2105 今月の休館日は **20日(定期)**
 高尾野図書館 電話0996-82-5452 " **17日(定期)**
 野田図書館 電話0996-84-3100 " **17日(定期)**

今月の休館日は?

メールアドレス izumilibrary@iaa.itkeeper.ne.jp <https://www.izumi-library.com>